

藤澤浮世絵館見学（報告）

1. 期日：2018年12月19日（水）
2. 場所：藤澤浮世絵館
3. 参加者：13名

藤澤浮世絵館 <http://fujisawa-ukiyoekan.net/>

藤沢市は、市民の郷土への愛着を育み、市民の文化の向上に寄与することを目的として、東海道藤沢宿や江の島の浮世絵をはじめとした郷土資料の鑑賞ができる施設「藤沢市藤澤浮世絵館」を開館いたしました。（2016年7月開館）藤沢市の浮世絵等資料コレクションは、1980年（昭和55年）に、市制40周年を記念して、日本大学元総長の呉文炳（くれふみあき）氏から譲り受けた江ノ島浮世絵等が中心となり、以来、郷土資料の一環として、藤沢宿、江の島を題材とした浮世絵や、関連資料を収集してきたものです。

浮世絵は、人々の暮らしや世相を描く絵画作品であり、江戸時代の庶民文化として発展しました。さらに、19世紀末には、ゴッホなどに代表されるヨーロッパの画家たちに大きな影響を与え、世界中から注目される美術品でもあります。藤沢の地は、江戸時代には東海道藤沢宿がおかれ、また時宗総本山清浄光寺（遊行寺）が立地し、信仰・行楽の地であった江の島や大山（雨降山）への参詣道の入口として、名所や伝説に根ざした多くの浮世絵が描かれたところです。（藤澤浮世絵館「浮世絵と藤沢」「ごあいさつ」より）

今回は、「広重の豎絵（たてえ）東海道勢ぞろい」展（2018年12月18日（火）～2019年2月17日（日））が開催されておりました。

「歌川広重」作の「五十三次名所図会」（日本橋から京まで）が展示されております。今回の展示は、従来とは異なり、「京 三條大はし」（No.1）から始まり「日本橋 東雲の景」（No.55）までとなっております。別添の資料1～資料3を参照してください。展示されている作品はすべて本物だということでした。

参加メンバーからの声

1. 「木目の出ている真新しい版」に感激した。
2. 五十三次の版画を京から日本橋まで逆展示とした工夫に感心した。
3. 湘南工大とのコラボのサイネージは海外の客には好評ではないでしょうか。
新しいチャレンジでよい！！
4. 講師の説明は分かり易く親切で非常に良かった。

集合写真



講師から説明を受ける



見学風景



見学会終了後、JR 辻堂駅前の「居酒屋」（やきとりセンター辻堂駅前店）で懇親会を開催。五十三次の浮世絵の話等々で盛り上がり、有意義な楽しいひと時を過ごしました。



2018年12月21日
報告：中野忠昭